



作家紹介

思想を盗め！

自由律俳句の巨匠 尾崎放哉

「歌をしても一人」。この句は、俳句史に残る代表的な自由律俳句です。中学の国語の教科書にも載っていてあまりにも斬新な句なので、記憶に残っている人も多いと思います。今回はこの句を詠んだ尾崎放哉について紹介します。彼は「自由律俳句の巨匠」と呼ばれるほど数々の自由律俳句を詠んでおり、特に短律の句を得意としていました。彼のほかの作品に「入れものが無い両手で受ける」「日物云わず蝶の影さす」があります。

放哉は、誇り高い士族の息子であり、高校や大学も名門校に通っていました。放哉の人生は、肩書きからして出世を保証されているようなもの、のはずでした。実際、当の本人は酒癖が悪く、そのうえ失敗を繰り返していたのです。

一方、俳句は十代半ばから制作し、定形の俳句においてある程度の地位を築いていました。放哉の定形俳句はシーンの切り取りが鮮やかでいかにも巧みに作ってあります。しかし、歳月が経って、バツチリと型にはまったそのスタイルには限界がありました。そして、そのことに放哉自身も気づいていたのだと思います。

そして一九二三年、放哉が亡くなる三年前。この時期に多くの自由律俳句が生み出されました。放哉の俳句は、まさに死と隣り合った男の日常そのものだったのです。そう言われると放哉の句は、今までの人生を振り返った上での悲痛の叫びであるとも受け取ることができます。

尾崎放哉の自由律俳句は、現代人でも気軽に楽しめる魅力があると思います。彼の人生の背景を知った上で、みなさんをもっとたくさんのおの自由律俳句に触れてみませんか。自分で自由律俳句を作るのもいいかも。

(1)



1	2		3	4
	5			
6			7	
		8		
9				

4. 黄色と青の絵の具を黄色多めで混ぜるとできろ色。
6. 超大人気漫画。「○○○×ファミリィ」。
7. 機械を英語で言うって？
8. ハワイを舞台にしたデイズニー映画。「○○&ステイツ」。

《ヨコの力ギ》

1. 人間の要である体の部位。
3. 尾崎放哉の代表作。「○○をしても一人」。★
5. 英語では「frame」と言う。
6. 12月にお寺で行われる大掃除のようなもの。○○払い。★
7. 北海道では寒さ対策で二重になっている。
8. 北海道にある昆布が有名な○○○島。
9. 世界一の富豪である○○○○・マスク。★

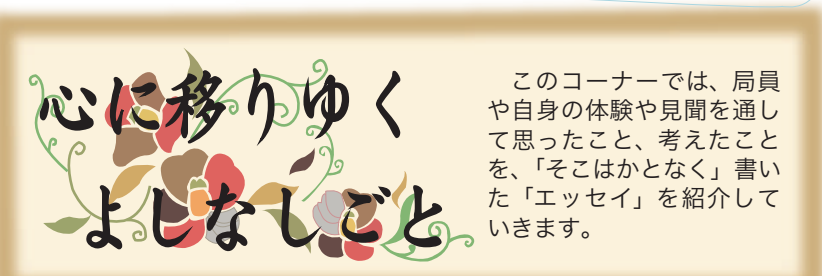
《タテのカギ》

この日が来ることを
待ち望む人もいれば、
そうでない人もいます。



並べ替えて答えを導け！

★がついているカギは、この館報の中に答えのワードがあります。解答がわかったらぜひ図書館の解答 BOX 前までお越しください。毎回解答していると良い事があるかも…



舞台上の「魔物」

「なあに、大丈夫だ、緊張しないで楽しんでやれ」。

これは、僕がピアノの大会・コンクールの会場に行くとき、父がよく言う言葉だ。もっともらしく言うが、何百人もの前で弾かなければいけないから、緊張しないわけがない。一方母は、「あそこの部分、ウナコルダ（左側のソフトペダルを踏むこと）忘れるんじゃないよ」などと、分かりきったことをしつこく言う。

どちらもそこまで励みにはなっていないし、むしろやかましいと思うてしまう。だが、不思議なことに控室に入ると時間になると不安で、一人になるのが辛くなる。控室では、母のマシガントークすら恋しくなる。

この界限では、「舞台には魔物が棲んでいる」とよく擬せられる。鍵盤の感触が想定外だったり、緊張のあまり頭が真っ白になったりするのである。魔物とは、一人で戦わなければならない。舞台上では、自分以外は戦力外だ。

とはいえ、演奏中は「これが終わったら何を食べようか」などと、所詮こんなことしか考えていない。控室や舞台裏では緊張していても、舞台上がってしまえば意外と大したことはない。

僕は、自身がピアノを通して本番に強くなることができた。チャンスが一度しかない中で、最高のパフォーマンスを発揮する能力は全てにおいて必要不可欠なのは誰もが知っている。しかし、それを持っている人は決して多くない。ピアノで培ったこの長所を大切に、今後も生きていきたい。()

図書館が参加した 大会

高文連第44回全道高等学校図書研究大会(十勝大会)

9月末、帯広市民文化ホールに同じ志を持つ仲間が集い、図書研究大会が行われました。分科会では新聞や雑誌、絵本といった多岐にわたるテーマごとに別れ、講義やワークショップ（参加者が主体的に行うもの）が行われました。新聞カテゴリーでは、文章を書くときに相手にどのようなことを伝えたいかを明確にすることの大切さを学びました。講師の方がテーマを深くまで掘り下げてくださり、レベルの高い分科会だったのでとても面白かったです。また、図書館報のコンクールでは、本校で発行している「年年歳歳」や「らいぶらりい」などが高評価をいただき、最優秀賞を受賞することができました。



嬉々として賞状を受け取る局長の浅野



嬉々として賞状を受け取る局長の浅野

第9回全国高等学校ビブリオバトル北海道大会

ビブリオバトルは、参加者それぞれがおすすめの本を持ち合い、書評する大会です。どの参加者も本に対する思いを熱く語り、聴衆からも多くの質問が投げかけられ、白熱したディスカッションでした。本校からは2名が参加し、図書局長の 〇〇 が見事優勝しました。来年の1月末に開催される全国大会に出場する予定です。

高文連石狩支部図書館（委員会）研究大会

午前 パネルディスカッション

居心地の良い学校図書館づくりをテーマに、実際に札幌の高校の図書館を例に挙げて議論しました。図書館に関する課題の解決に向けて、参加者が意見を出し合って交流を深めました。具体的には、「多くの人に図書館を利用してもらうためにはどうしたらよいか」や「図書館についての情報を全校に効果的に発信するためにはどうしたらよいか」など、実際に各校が抱えている問題に対して議論しました。今回のディスカッションで学んだことを月寒高校の図書館にも反映させていきたいと思います。

午後 ワークショップ

図書館報の作り方について講師の方から教わりました。どのようにすれば目を引くレイアウトになるのか、館報を読む人にどんなことを伝える紙面なのかなど、レイアウトの構成を行う上での心得を学ぶことができました。また、質が良いレイアウトは、すでに世の中に出回っていますが、それらを模倣しすぎるのではなく独自性を見出していくのも大切だということに気付かされました。

全体を通して、これからの活動に直接的に繋がることを学ぶことができた
と思います。他の高校の図書局員の方と交流することでお互いを高め合うこ
との刺激にもなり、改めて月高図書館の現状について考え直すきっかけにな
りました。()

片言隻語

文これから冬休みに入りますが、クリスマスやお正月でうつつを抜かさず、体調管理に気をつけて実力テストやベネッセ学力テスト、そして全統模試に備えましょう。そして、おそらく 3 年生の皆さんが年年歳歳を読むのはこれが最後になると思います。図書局員一同、応援しています。()